

# 写真家が

# とらえた

# 佐世保



私たちのふるさと佐世保。美しい自然や固有の歴史・文化など、本市の魅力は数多くありますが、本市ではまちづくりの目標の一つに「市民の元気で輝くまち」を掲げており、市民の皆さんの暮らしそのものも佐世保の大きな魅力の一つであると考えています。

そこで今回は「写真家がとらえた佐世保」というテーマで、特に市民の皆さんの普段の暮らしにスポットを当て、写真家・中倉壮志郎さんに皆さんの生き生きとした様子を撮影していただく特集を企画しました。



高島ちくわの工場にて。ちくわを焼き上げる作業で大粒の汗が流れています。

中倉さんは本市在住の写真家。その独自の感性で表現された美しい市内各所の写真は、本市の観光パンフレットなどにも数多く掲載されています。また、地元の人を被写体とした写真は自然で柔らかな表情が大変印象的であると、多くの皆さんから好評を得ています。

特集では、今回新たに撮影していただいた鹿町地域の真珠養殖場や小佐々地域の九十九島いりこの加工場で働く皆さんの写真などをご紹介します。紙面が限られているため多くを掲載できませんが、これらの写真を通して、これまでとは違った視点でふるさと佐世保を感じていただきたいと思います。

折しも近年、スマートフォンやデジタルカメラの普及とともに、フェイスブックなどの交流サイトで写真を楽しむ人が増え、写真に関心を持つ人が増えてきていると言われています。また、本市の「させば観光デジタルフォトコンテスト」(裏表紙参照)をはじめ、全国各地で同様のコンテストが盛んに開催されています。

今回の特集では、中倉さんに写真撮影のこつなどについてもアドバイスをいただきましたので、今後の参考にさせていただきたいと思っています。



小佐々地域の九十九島いりこ加工場で働く皆さん。明るい職場で、仲の良い雰囲気などが伝わってきます。

鹿町地域の真珠養殖場で核入れの作業を行う皆さん。仕事に打ち込む真剣なまなざしが印象的です。



### 写真家 中倉壮志朗

打ち合わせの日に自宅を訪ねると、長靴を履いてホースを手にした男性が、畑に水をまきながら「おー。ちよつと待つとって!」とにこやかに出て来ました。傍らには3歳になる次女が遊んでいます。この男性が、今回撮影や写真提供をお願いした中倉壮志朗さんでした。

中倉さんは、佐世保を拠点に活躍されている写真家です。近年は国内にとどまらず、ブータンへも撮影に赴き、2011年に写真展「Bhutan しあわせの風の民」をアルカスASEBOをはじめ、全国各地で開催。現地の人々の輝く瞳や、質素でありながら穏やかで美



写真展「Bhutan しあわせの風の民」のポスターに使用した少年の写真

しい暮らし振りを捉えた数々の写真を発表しました。

中倉さんは佐世保市生まれ。下積みを経て30歳のとき東京都内に写真事務所を設立しました。大手ウイスキーメーカーなどのポスターやカレンダーの撮影を行っていましたが、41歳のときに帰郷し、故郷で写真家としての活動をスタート。現在までさまざまな写真が観光パンフレットや雑誌などに掲載されています。彼の優しい目線で捉えられた写真を見ることがある市民の皆さんも多いのではないのでしょうか。そんな中倉さんに、写真について話を伺いました。

#### 写真は

コミュニケーションが大切

「中倉さんの写真は、いつも自然で優しい人物写真が印象に残ります。撮影のこつなどがあれば教えてください。」

「写真はコミュニケーション。上手くコミュニケーションが取れば、50%撮れたようなものですよ。私の撮影は全て『撮りますよ』と意思表示をしてか

ら始まります。国内に限らず、海外でも同じです。誰でもカメラが自分に向いていれば表情も体も固くなりますから、まずはたくさん話をして一緒に時間を過ごす中で、シャッターチャンスをつくるんです」

「なるほど。確かに撮影に同行してみても、会話を交わすことで被写体の皆さんがリラックスしていくのが分かりました。」

「もう一つ、写真展やインターネットなどで作品として発表しますから、最初に『撮りますよ。あなたの写真を発表してもいいですか?』と必ず相手に了承を得るようにしています」

「そうですね。確かに自分や家族の写真が、無断で何かに使われることはいい気分ではありません。」

「はい。写真を撮るに当たってのコミュニケーションにはいろいろな要素があるんです。例えば、私はよく教会の撮影に行き、ミサの写真も撮っています。しかし、教会には撮影禁止の場所や時間がありますから、本来こういった写真は撮影できません。私の場合は3年か



中倉壮志朗さん

けて信者の人たちとコミュニケーションを取り続け、やっと撮影の許可をいただいたという経緯があります」

「最近では携帯電話のカメラ機能もあり、気軽に写真を撮る楽しめる反面、フェイスブックなど交流サイトへの投稿も含めて、撮影者のマナーなどが問題になることがありますね。被写体や周囲への配慮としても、コミュニケーションが必要なんです。」

#### 子どもは

自然な表情の写真を

「広報紙の読者には子育て世代や孫がいる世代の人がたく

さんいます。最後に、我が子や孫を、よりかわいらしく撮るコツを教えてください。」

「我が家では、ピースサインをしたら撮りません。それから、笑った顔もかわいいですが、泣いた顔、すねた顔、一生懸命な姿などでもいいですね。普段親として見ている自然な表情を撮ってあげたらどうでしょう。それから自分の目の高さやカメラの位置を、子どもの目の高さまで下げるといいですよ」

取材日 5月20日

◎秘書課 ☎24・11111